

◎「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)FD / SD研修会」

『「地域入門」—入門—』勉強会を実施しました

9月17日(木)に『「地域入門」—入門—』と題した学内教職員対象の勉強会を実施しました。今回の勉強会は、2015年度秋学期から全学部1回生必修科目「地域入門」が新規科目としてスタートするにあたり、「地域」を改めて考える機会として行いました。

まず、第一部は「なぜ『地域』なのか？」と題して、地域協働研究教育センター滋野浩毅専任研究員が講演しました。大学を取り巻く環境の変化や大学改革の視点から、「地域」がどのように考えられるようになってきたのか、本学が行っている地域連携活動のタイプ、今後の地域連携の課題について紹介しました。

第二部は同センター木田竜太郎専任研究員が『「地域志向教育」とその評価を考える』と題して、大学の「教育改革」の流れ、「教育改革」の効果測定に関する現況と展望、また「ルーブリック」の利点と留意点について話しました。その後、「地域志向教育」を評価するルーブリックについて、個人ワークを行いました。

今後「地域入門」の授業の進行と併せて、「地域」をテーマにした勉強会を継続して実施する予定です。



滋野浩毅 (地域協働研究教育センター専任研究員)



木田竜太郎 (地域協働研究教育センター専任研究員)

◎「ニュータウンのまちづくり」について考える

「向島団地大学ミニゼミ」開講しています

京都文教大学に隣接する向島ニュータウンに、地域のコミュニティスペース「京都文教マイタウン向島(通称MJ)」があります。MJでは今年の7月から、地域志向協働研究「京都南部・向島地域のニュータウンにおける大学・住民協働のまちづくり研究」主催による「向島団地大学ミニゼミ」を開講しています。研究会メンバーが毎月一回、月替わりでまちづくりに係るミニ講座を行い、これまでに「ニュータウンの住環境」や「地域住民のまちづくり活動」等のテーマで、研究員・地域住民が共に学ぶ場として実施しました。

10月は、本学臨床心理学部教育福祉心理学科吉村夕里教授が「ニュータウンとメンタルヘルス～障がい者福祉の課題～」と題したテーマで行い、福祉のまちづくりについて学ぶ機会を設けました。現状では障がい者の加齢や病状の変化に伴って住み慣れたコミュニティを離れなければならないケースが多くなっています。しかし、吉村教授は「ニュータウンでは、人間関係の密度を活かした手作り感のあるケア・同じ場所で暮らし続けられるケアができるのではないかとニュータウンの可能性について述べました。



イベント開催のお知らせ

子どもからご年配の方、障がい当事者や留学生など、様々な人が集い、交流できる地域のみなさんを対象とした大学開放イベント!

ともいき(共生)フェスティバル 2015

- 日時: 2015年11月28日(土) 11:00~16:00
- 会場: 京都文教大学 サロン・ド・パドマ 他
- お問合せ: 京都文教大学フィールドリサーチオフィス

参加無料  
(物販、模擬店をのぞく)

◎小学生わくわく体験【10:30~12:30】(参加無料・申込不要)  
大学生のお兄さんやお姉さんたちと、楽しく学ぼう!

◎子ども野球教室【13:00~15:30】  
全国大会15年連続出場する本学軟式野球部が小学生(学年・男女不問)を対象に、野球をレクチャーします!  
(参加無料・定員先着30名・要事前申込)

◎ともいきヘルシーランチ【11:30~13:30】(数量限定)  
(株)典座×京都文教短期大学食物栄養学科による特別メニュー「ともいきヘルシーランチ」を会場と学生食堂にて販売します。

◎地域の魅力を考える【14:00~15:30】(参加無料・申込不要)  
自分が暮らす地域を見つめ、まちの魅力を考えるワークショップです。  
その他、宇治市立小学校の児童生徒による作品発表や本学学生、地域住民によるワークショップ等、楽しい企画が盛りだくさんです!



京都文教大学 地域協働研究教育センター

ニュースレター **ともいき** TOMOIKI vol.4  
2015年11月発行

「京都府南部地域 ともいき(共生)キャンパス」でのさまざまな活動をお伝えします。



## 宇治市、京都文教大学、京都文教短期大学による 連携協力懇談会 開催

2015年8月28日(金)に実施しました。

宇治市、京都文教大学、京都文教短期大学による連携協力懇談会を本学光暁館第1会議室にて開催しました。

懇談会には、山本正宇治市長、平岡聡京都文教大学学長、安本義正京都文教短期大学学長のトップ3名をはじめ、市や大学の幹部職員・教員25名が参加しました。

京都文教大学・京都文教短期大学は2010年に宇治市と包括連携協定を締結し、宇治観光や商店街活性化、子育て支援など、地域連携の取組を展開してきました。昨年7月に本学が文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されたことをきっかけに昨年9月に初めて連携協力懇談会を開催、今回で第2回目となります。

この日はまず、平岡学長が「本学の取組が地方創生のモデルとなることが理想的」、山本市長も「現在より連携を進展させ、新しい取組を行いたい」と挨拶。これまでの連携協力について現場担当者からの説明後、今後の連携の方向性について、意見交換が行われました。

まず、若者の宇治市への定住促進や雇用に関する問題について、地元で

育ち、地元で学び、地元で就職してもらうための取組として、地元企業も含めた4者で構成する連携機関づくりについての安本学長から提案があり、地域でのインターンシップの戦略的活用、大学・短大の専門課程に関連する資格を活かした就職支援についてを、今後の検討課題としました。

また、市と大学で取組む「宇治市高齢者アカデミー」については、来年度より短大の参加予定について表明があり、提供科目の増加が見込まれる他、現在70歳以上としている対象年齢の引下げなど、制度の再検討についても言及があり、高齢者の学習機会・社会参画・生きがいづくりのため、3者での連携強化・推進を図ることとしました。

その他、本学の地域志向協働研究への宇治市職員の参画など、これまでの連携事業についての報告や、いじめ・不登校・引きこもりなど、現在の教育課題についても活発な意見交換がなされ、今後の連携の方向性が確認されました。

今回、懇談会で挙げられた課題については、毎月1回、情報共有・意見交換の場として実施している連絡調整会議を経て取組んでいきます。



冒頭に挨拶する平岡学長



当日の様子



左：平岡聡 京都文教大学学長  
中：山本正 宇治市長  
右：安本義正 京都文教短期大学学長

### ● 宇治市との連携協力に係る会議体一覧

会議名	議論内容
連携協力懇談会	・「宇治市と京都文教大学並びに京都文教短期大学との連携協力に関する協定書」に基づき、宇治市と京都文教大学・京都文教短期大学の連携事業や地域連携のあり方などについて、市長や学長等の役職者を交えての意見交換、懇談
連携協力推進会議	・現場レベルで取組んでいることの状態を踏まえた全体的、部局横断的課題の抽出および調整 ・各部長レベルで考えている新規の連携課題の頭出しと今後の進め方についての意見交換 ・市長の意向を受けて推進したい事項についての事前協議
連絡調整会議	・毎月1回、定例的な意見交換、協議の場として設定 ・京都文教大学・京都文教短期大学、宇治市それぞれが把握している連携活動の集約・共有 ・新規事業や予算化にむけた情報収集、調整

※宇治市・京都文教大学・京都文教短期大学は、上記の会議体を通して、連携活動の推進を図っています

## 平成27年度 地域志向教育研究 ともいき研究助成事業(住民参画型) 「新聞を通じて地域の子どものための地元愛を育む研究」 「子ども記者」活動中です

研究代表者：橋本祥夫(臨床心理学部教育福祉心理学科 准教授)

城陽市市民活動支援センター、京都府南部山城地域をエリアとする新聞社「洛南タイムス社」と本学が協働で進めるこの研究では、宇治市と城陽市にて「子ども記者」活動を行っています。公募で集まった「子ども記者」たちは、洛南タイムスの記者や本学教員から取材の方法や記事の作成方法を学び、実際に地域を歩き、取材を行います。子どもの目線でまとめた記事は、洛南タイムスの紙面に掲載されます。

これまでに「市民活動」「地元商店街」「地元名産品」を取材しました。初めて接する様々な世代の地域の人に、子どもたちは毎回緊張の面持ちですが、取材が進むにつれ興味を持って質問が飛び交うようになりました。

「子ども記者」は、普段通り過ぎるだけの道や近くに住んでいても行ったことのない場所に、地域ならではの「もの・魅力」があるということに気付く機会となっています。この活動を通じて、子どもたちの地域を見る視点、自分の住む地域への意識がどう変わるのか、ひいては地元愛の形成に繋がるのか、今後も引き続き子どもたちの変化を見守りたいと思います。



↑子ども記者クラブ(宇治版)

↑子ども記者クラブ(城陽版)

## 平成27年度 地域志向教育研究 ともいき研究助成事業(産官学協働型) 「宇治市における愛着度形成に関わる政策提言のための研究」 金沢市ヒアリング調査の実施

研究代表者：山本真一(総合社会学部総合社会学科 准教授)

2015年9月2日(水)に実施しました。

宇治市への愛着を高め、定住人口の増加を促す政策を提案するために研究を進めています。今年度の上半期の研究では、地域ブランドの確立が人びとの愛着心や居住行動に影響するのではないかと考え、地域ブランドの確立に向けた取組を進めている金沢市でヒアリング調査を実施しました。

訪問先は、金沢市役所(金沢市経済局ものづくり産業支援課、金沢市都市政策局歴史文化部歴史建造物整備課)とNPO法人金澤町家

研究会です。前者では「金沢かがやきブランド」認定制度や金澤町家の利活用を促す制度について、後者では金澤町家のコーディネート事業や町家を活用したイベントについてヒアリングを行いました。金沢市では市内の中小企業が開発した優秀な製品をブランド認定することにより、認定された製品の売上げが伸びたという声があること、また同市が平成22年度より金澤町家再生生活事業を通じて町家の保存と再生を進めていることを知りました。一方、NPO法人金澤町家研究会では、市民の認知度向上のために町家巡遊というイベントを実施しており、町家巡遊によって町家にあるショップを新たに発見できたという参加者の声があることも知りました。

今回のヒアリング調査では、ブランド認定が消費向上のきっかけを与えること、ならびに金澤町家は住まいという私的な空間であるために、町家の利活用において課題があるという知見を得ました。今後は、地域ブランドが人びとの行動に与える影響を検証しながら、地域ブランドを愛着心の向上につなげるプロセスを分析していきます。



NPO法人金澤町家研究会  
(ギャラリー&カフェ棟内)

●本学では平成26年度より、自治体職員、団体・企業、地域住民が研究員として参画し、本学教職員・学生とともに地域課題解決を目指す「地域志向協働研究/ともいき研究」を推進しています。





COC事業の一貫として、全学共通科目の「現場実践教育科目」(2年次以上・選択必修※)では、2015年度春学期には「プロジェクト科目(地域)」と「ボランティア演習」を開講しました。(※臨床心理学部教育福祉学科を除く)

## 現場実践教育科目「プロジェクト科目(地域)」(2単位・選択必修)

2015年度春学期、「プロジェクト科目(地域)」は京都府南部地域に根ざした3クラスを開講しました。この「プロジェクト科目(地域)」は「地域で学び、地域に学ぶ—そして、地域に活かす」をコンセプトに京都府南部地域をフィールドとして、「現場実践力」を育成する授業です。

### 地域探検・発見

担当教員: 滋野浩毅・木田竜太郎

城陽市でのフィールドワークを通じて地域を知り、市民活動団体や地域の人たちへのインタビューを経験する中で、地域課題を発見することを目標として授業を実施しました。「子ども記者」(P.2参照)との連携を行い、子ども達と一緒に地域取材し、学びのアウトプットとして新聞記事を作成しました。



「子ども記者」と受講生の活動の様子

### 地域企業に学ぶ社会的ニーズ

担当教員: 手嶋英貴

このクラスでは、地域の中堅・優良企業や卒業生が勤めている企業を訪問し、受講生は地域企業の状況を知り、先輩の活躍を目の当たりにしました。卒業生が本学に来て講演していただく機会がありますが、実際に勤務場所で働く姿を見ることは受講生にとって、「今後の地域で活躍する自分自身」を考えるうえで非常に参考となる機会になりました。

### 地域企業と考える健康食品市場

担当教員: 武田克己

本学が所在する宇治市の企業から「10年後の健康食品市場はどうなっているか」を考察するという課題をいただき、受講生がその課題解決を行う授業を実施しました。今日、私たちにとって身近になりつつある「健康食品」。その健康食品の実状を課題提供企業から講義していただいたり、市場調査などを通じて、10年後の市場動向の提案を行いました。

## ● プロジェクト科目「合同成果発表会」

春学期の学びの集大成として、7月18日(土)に実施したプロジェクト科目「合同成果発表会」で、受講生は地域というフィールドで学んだこと、経験したことを他のクラスの受講生や学外からのゲストの方の前で発表しました。今後、受講生は、この「プロジェクト科目」で得た経験を糧に、将来は「ともいき人材」として地域で活躍することが期待されます。



7月18日(土)プロジェクト科目「合同成果発表会」の様子

プロジェクト科目「合同成果発表会」の企画から運営までを学生の有志団体「プロハピョ」が行っています。「『プロジェクト科目』の受講生が授業での学びをしっかりと発揮するために」という目的とともに、プロハピョの活動自体も社会人基礎力や礼節、マナーを身につけ、課題解決型の活動を体感することを目的に活動してきました。

今回は地域の方にも多く発表会に来ていただくために、宇治市や伏見区での広報活動を精力的に取組むと共に、当日の司会やタイムキーパーなどの運営もプロハピョが行いました。発表会後には成果と課題について学生自身で振り返りを行い、次回の活動につながる提案を行ってくれました。

※「プロハピョ」の名称は「プロジェクト科目」の「プロ」と「発表会」の「ハピョ」が由縁

## プロハピョの活動



↑ 商店街での広報の様子



← 当日の活動の様子

## 現場実践教育科目「ボランティア演習」(2単位・選択必修)

特に東日本大震災以降、「ボランティア」の活躍が目されるようになり、本学学生の中にも日々ボランティア活動に取り組んだり、復興支援などにも参加している学生が多くいます。しかし、まだまだボランティアを行ったことがないという学生が多いのも実状です。

この「ボランティア演習」では、「共生=共に生きること」をキーワードに、「社会実践としてボランティアに参加し、他者への関わりを通じて社会の中の自己を再発見すること」を目標としています。この授業は、ボランティアを行ったことがないという受講生のため、ボランティアについてはじめて考えたり、宇治市近隣でのボランティア

活動を体験するというきっかけ作りの授業です。現在、この科目では下記の3コースを開講しています。今回は「学校支援コース」を履修した学生の感想を紹介します。

コース名	担当教員	受講者数
学校支援コース	米田康郎	30名
社会福祉支援コース	竹口等・宇治市社会福祉協議会	16名
その他(自己開拓)コース	竹口等	6名

宇治市の小学校でのボランティア活動を通じて、これまで学科で学んでいたカウンセリング手法と同様に、ボランティア活動も相手との信頼関係を築き上げることが初歩中の初歩であり、且つ一番重要だと実感しました。

普段、私たちは友人同士の会話の中で誰にでも通じる言葉を喋っている「つもり」です。しかし、学外でのボランティア活動で子どもと接する中で、それは「つもり」であり、コミュニケーションは自らの意識を改めることによってもっと円滑になること、また特にボランティア先には多くの人がいるため、「わかりやすい言葉」と「表情」を使ってのコミュニケーションを心掛けることが信頼関係を築き上げていくうえで大切だと気づきました。

今回、「ボランティア」という学外での活動を通して、学科で学んだことを実践し、また新たな経験を得ることができました。



北村 慎士(臨床心理学部 臨床心理学科 3回生)  
「学校支援コース」受講

## 活動報告 4 <社会貢献>



1期生卒業式(卒業証書授与)



3期生入学式

## 宇治市高齢者アカデミー 1期生卒業式・3期生入学式を挙行了しました

2015年9月11日(金)に実施しました。

宇治市高齢者アカデミー 1期生(2013年度秋学期入学/卒業生数: 21名・平均年齢: 75.7歳)の卒業式を執り行いました。

当日は山本正宇治市長をはじめ来賓の方々も多数ご来席いただき、京都文教大学平岡聡学長より1人1人に卒業証書が授与されました。最後に、卒業生代表として藤田稔さんが謝辞を読みあげ、大学のキャンパスで現役大学生と一緒に学んだこの2年間の楽しさや実りの多さ、そしてここで出会った仲間との存在、履修した科目の担当教員をはじめとした本学教職員や宇治市への感謝が述べられました。宇治市高齢者アカデミー 1期生卒業式に引き続き、この秋から学

生と一緒に本学で学ぶ、アカデミー3期生(入学人数: 14名、平均年齢: 72.8歳)の入学式を同日に挙行了しました。山本宇治市長、平岡学長の式辞に引き続き、新入生を代表し、梅景忠夫さんが入学にむけての決意や意気込みを発表。さらに、在学生を代表し、宇治市高齢者アカデミー2期生の堺俊さん、本学学生代表として学生自治会長を務める平野賢さん(総合社会学部3回生)が祝辞を述べました。

今後ますます地域で活躍するアカデミー1期生と現在地域について学びを深めているアカデミー2期生・3期生のみなさんの今後にご期待ください。

### 宇治市高齢者アカデミーとは・・・

宇治市と本学の連携事業「宇治市高齢者アカデミー」は、生涯学習の一環として、高齢者を対象に学習機会を提供し、高齢者の社会参加、生きがいづくりに寄与するとともに、地域社会に貢献する人材養成を目的に、2013年度秋学期から開講しました。

宇治市高齢者アカデミーは2年間のプログラムです。本学学生たちと一緒に、週1回の授業を受講し、試験またはレポートを提出するなどして単位を修得します。加えて、月1回のアカデミー生のゼミ活動「アカデミーアワー」では、特別授業や本学学生との交流会、ディスカッションなどを行っています。



アカデミーアワーの様子

## 地域連携学生プロジェクト「宇治☆茶レンジャー」主催 親子で楽しむ宇治茶の日2015 開催

2015年10月4日(日)に実施しました。

宇治川の周辺、中宇治エリア一帯で「宇治茶まつり」が開かれました。京都文教大学も実行委員に加わる秋の一大イベントで、宇治茶の茶祖を祀り、今後の宇治茶の発展を祈る伝統あるおまつりと、より広い世代が宇治茶に親しめるようにと始まったイベントの両方が楽しめる宇治茶づくしの1日です。

この催しに併せ、本学地域連携学生プロジェクト「宇治☆茶レンジャー」主催による「親子で楽しむ宇治茶の日2015」も開催。親子をメインターゲットにおき、楽しみながら宇治茶を学べるクイズラリー「宇治茶スタンプラリー」と、お茶屋さんごとのこだわりを知りながら、ほっこりゆっくりにお茶屋さんとの会話を楽しむ「聞き茶巡り」の2つを実施しました。

当日は、最高のイベント日和。聞き茶巡りの参加者に購入いただく「聞き茶巡りセット」は、販売開始後すぐに長蛇の列となり、午前中には完売！宇治茶まつりとの相乗効果もあり、宇治茶スタンプラリーのポイントも大変賑わいました。また、今年新たに実施した「5

茶レンジャーを探せ！」(赤、青、黄、緑、白の5色のTシャツを着たスタッフを見つけるとオリジナルシールがもらえる企画)が子どもたちに大好評！まち行く人たちは、みなスタンプ帳を手に散策を楽しんでいました。宇治茶まつり全体では、約35,000人の来場者と発表され、宇治☆茶レンジャーの企画もこれまでの6年間で最多と思われる賑わいを見せました。

この日を迎えるにあたって、学生たちは宇治茶を学び、各自でその魅力や楽しさを見出し、スタンプラリー班、聞き茶班に分かれ、それぞれの企画や広報を進めてきました。また、このイベントは、茶業関係者、行政関係者、近隣商店街、そして、宇治☆茶レンジャーの思いを受け、当日運営スタッフとして学内外から参加頂いた140名余りのみなさんにご協力いただきました。多くの地域のみなさんごの厚意で無事に終了できた今年の宇治茶の日。参加いただいた方々に少しでも宇治の魅力が伝わり、宇治茶を通じてみなさんのコミュニケーションが更に深まれば幸いです。



青空の下、スタンプポイントは大賑わい！



5茶レンジャーは子どもたちに大人気！



みなさん、手には黄色いスタンプ帳を！



美味しい宇治茶は、ゆっくり丁寧に。



聞き茶巡り。家族でゆっくりお茶を味わう。



スタンプラリーのゴールは大盛況！



「これわかる？」「2番かな？」そんな声が聞こえてきそう。



スタンプラリーでは、NPO法人「山城こみねと」さんによる演劇形式のクイズも。



左：スタンプ帳  
右：聞き茶巡りセットの茶器

## 京都文教大学地域連携学生プロジェクトも多数参加！ 宇治橋通り 音で紡ごう わんさかフェスタ

2015年10月24日(土)に実施しました。

サテライトキャンパス開設以前から、連携して取組を行っている宇治橋通り商店街で、毎年秋に開かれる住民参加型イベント「宇治橋通り 音で紡ごう わんさかフェスタ」。今年も、約770mある宇治橋通り全体を舞台として、地域で活躍する団体やNPO、地元の幼稚園、小・中学校など住民が主役となるフェスタが元気に開催されました。

本学もイベント実行委員に加わり、地域連携学生プロジェクトから「宇治☆茶レンジャー」「商店街活性化隊しあわせ工房 CanVas」

「響け!元気に応援プロジェクト」が、総合社会学部から「鶴飼ゼミ」「潘ゼミ」、そして、本学COC事業の一環で取組む協働研究から「宇治の音風景100選プロジェクト」の合計6団体が参加しました。その他にも、秋から活動をスタートさせる本学学生によるラジオ番組制作チーム「京都文教学生放送局」が、特設ステージの司会補助を務めるなど多くの学生がフェスタを盛り上げました。その中から、地域連携学生プロジェクトから参加した3団体の当日の取組を紹介します。



### 宇治☆茶レンジャー

宇治茶の魅力幅広い世代に向けて発信する取組を行っています。“若者のお茶離れ”と言われるなか、「お茶」をテーマにまちづくりや地域活性化に取組む全国の学生たちが集まり、フェスタ会場内で各地のお茶のPRや販売、活動紹介を行う「全国お茶まちづくりカレッジin宇治」を企画しました。香川大学、皇學館大学、岐阜経済大学、鹿児島県立短期大学、京都府立農業大学校に本学を加えた6大学と、京都府立木津高校、岐阜県立飛騨高山高校の2つの高校が参加し、学生同士、そして地域の人と、お茶を通じて交流が生まれました。



### 商店街活性化隊しあわせ工房 CanVas

宇治橋通り商店街の振興組合から公認をいただき、商店街の魅力発信に取組んでいるCanVas。フェスタ当日は、宇治橋通りのあちこちに散らばるメンバー(青いハッピーが目印)を探し、彼らから与えられるミッションをクリアしたらサインがもらえるゲームを行いました。CanVasメンバーは、他団体の出展ブースのお手伝いもしており、参加者がゲームを通していろんなブースに立ち寄りやすくなっています。青いハッピーは子どもたちに大人気で、商店街の至る所で子どもたちに囲まれるメンバーの姿がありました。



### 響け!元気に応援プロジェクト

この春放映された宇治を舞台にしたアニメ作品「響け!ユーフォニアム」。このアニメをきっかけに宇治を訪れるアニメファンが増えています。このプロジェクトは、ファンと地域、作品と地域をつなげることを目的に活動しています。

フェスタでは、作品の主要テーマである「音楽(楽器)」に親しむ機会をつくることを目的に、子どもたちを対象に、ペットボトルやストローなど身近なものを使って手軽にできる楽器作りのワークショップコーナーを企画、実施しました。

今年のフェスタは全体テーマが「音」だったため、アニメにちなんだ横断幕が用意されました。アニメの主人公たちが通う「北宇治高校」の制服(レプリカ)を着たプロジェクトメンバーが、その横断幕を持ちオープニングパレードの先頭を歩きました。



● 地域連携学生プロジェクト…地域に根ざし、地域に学び、地域の課題解決を目指す学生たちの自主的な取組です。本学が募集を行い、選定された取組には、予算をつけ広報面や運営面のサポートをしながら進めています。